

「新しい獣医学教育の方向性と 獣医学教育者の責務に関する声明」

平成24年3月28日 大宮ソニックシティ 第8会場
第6回 獣医学教育改革委員会



**全国大学獣医学関係
代表者協議会**

[トップページ](#)

[協議会組織図](#)

[インフォメーション](#)

[役員](#)

[教育プログラム](#)

■新しい獣医学教育の方向性と 獣医学教育者の責務に関する声明(2011年9月)
-全国大学獣医学関係代表者協議会 会長 吉川 泰弘-

全国に存在する16の獣医系国公立大学の協議会である全国獣医学関係大学代表者協議会(以下本協議会)は、これまで日本獣医学会、日本獣医師会等の助力を得て、継続的に獣医学教育の改善に関わる活動を続けてきた。

しかし、頻発な新興・再興感染症の出現、人獣共通感染症や国際家畜感染症の国内への侵入を受け、感染症防御・危機管理体制の確立や、また食の安全、食の安定供給の確保等が求められている。このため、獣医学教育において、獣医公衆衛生学を含む公共獣医学の充実、有用な人材の育成が喫緊の課題となってきた。また、国際的な疾病統御体制の確立等を目指し、国際獣疫事務局(OIE)は各国の獣医学教育の国際基準となるミナモトコンベンションを提示した。

このように最近の獣医学教育を巡る国内、国外のニーズ、状況は極めて急激に変わりつつある。このような動向に向け、本協議会は獣医学大学教育を豊かで実りあるものにするための考え方を提示する必要性を認識した。本協議会は、これまでの活動、諸問題の検討結果を総括し、新しい獣医学教育の方向性を示す必要があると判断し、この声明を発するものである。(獣医学振興・創刊号より抜粋: [全文PDFはこちら](#))

※この声明はパブリックコメントにより各大学のご意見を伺った後、全国協議会での承認をうけて作成したものととなります。

国立獣医系大学による標準的な
基礎教育プログラムの開発
社会的なニーズに即応できる質の
高い獣医師の育成を図ります。

獣医学教育モデル・
コア・カリキュラムに
関する調査研究
より詳しく
獣医学教育のコア・カリキュラムを
策定し、獣医学教育法のモデルを
明示します。

獣医学
共通教科書の
刊行事業計画
獣医学学生が知っていなければならない
教育内容を厳選して提示するコン
テンパトな教科書を刊行します。

獣医学学生のための実習
インターンシップ
プログラム
高度で実践的な獣医学の実習とイン
ターンシップに関するプログラム
を提供します。

全国大学獣医学関係代表者協議会会長・北里大学獣医学部教授 吉川泰弘

誰が出した声明か？ 誰に向かって出した声明か？

本協議会（獣医系16大学の協議会：全国協議会）は獣医学大学教育を豊かで実りあるものにするための考え方を提示する必要性を認識した。本協議会は、これまでの活動、諸問題の検討結果を総括し、新しい獣医学教育の方向性を示す必要があると判断し、この声明を発するものである。

- ・ 声明書案を作成、全国協議会に提示
- ・ 16大学で検討、全国協議会で承認（全国協議会が声明した！）



- ・ 全国4会場（大阪、東京、北海道、鹿児島）で、全獣医系大学教員に説明し、同意を得た。
- ・ 声明書のコンセプトに全教員が同意し、社会に声明したと考える

全国協議会HP、獣医師会誌、獣医学新報

声明の骨子は？

第1章：この声明の趣旨

第2章：獣医学教育に関係する諸動向

- 1、獣医学教育に対するニーズの変化（国内外のニーズ）
- 2、文部科学省「協力者会議」答申（4本柱のロードマップ）
- 3、農林水産省獣医事審議会答申（参加型実習）
- 4、共同学部、共同教育課程の設置（設置審承認）

第3章：この声明を発する必要性について

- 1、大学教育の質保証の確保
- 2、コアカリキュラム作成
- 3、コアカリと参加型実習
- 4、参加型実習の必要性和課題の解決に向けて

第4章：この声明の最後に当たって

第1章 この声明の趣旨

全国に存在する16の獣医系国公立大学の協議会である全国獣医学関係大学代表者協議会（以下本協議会）は、これまで日本獣医学会、日本獣医師会等の助力を得て、継続的に獣医学教育の改善に関わる活動を続けてきた。

しかし、頻発な新興・再興感染症の出現、人獣共通感染症や国際家畜感染症の国内への侵入を受け、感染症防衛・危機管理体制の確立や、また食の安全、食の安定供給の確保等が求められている。このため、獣医学教育において、獣医公衆衛生学を含む公共獣医の充実、有用な人材の育成が喫緊の課題となっ

てきた。また、国際的な疾病統御体制の確立等を目指し、国際獣疫事務局（OIE）は各国の獣医学教育の国際基準となるミニマムコンピテンシーを提示した。

このように最近の獣医学教育を巡る国内、国外のニーズ、状況は極めて急激に変わりつつある。このような動向をうけ、本協議会は獣医学教育を豊かで実りあるものにするための考え方を提示する必要性を認識した。本協議会は、これまでの活動、諸問題の検討結果を総括し、新しい獣医学教育の方向性を示す必要があると判断し、この声明を発するものである。

第2章 獣医学教育に関係する諸動向

1. 獣医学教育に対するニーズの変化

近年の獣医学教育および人材育成に対する社会のニーズは大きく変動した。また、このニーズの変化には国内的側面と国際的側面の両方がある。

第二次世界大戦後、国内的には獣医師へのニーズは、戦後の食糧増産のための畜産振興の支援からスタートした。家畜衛生、主要な家畜感染症の統御、産業動物の個別診療技術の高度化などが求められた

ト・ウルグアイラウンド以後の国際貿易の拡大・食糧自給率の減少は、消費者の食へのリスク意識を一層高めることとなった。さらに国際的な人獣共通感染症のアウトブレイクや国際家畜感染症の国内侵入は、感染症統御・危機管理に対応する新しい獣医師へのニーズを生んでいる（感染症・リスク分析・公衆衛生分野の充実の必要性）。

このように、わずか半世紀の間に獣医師に求められる社会的なニーズは、変化し、増加・拡大の一途

獣医学教育の改善・充実策 リーダーは繰り返し、繰り返し 説明と同意を得る必要がある

OIEの獣医教育改善戦略

第150回日本獣医学会学術集会
第4回獣医学教育改革委員会
2010年9月17日 帯広畜産大学原虫研PKホール



2009年
パリ・OIE

北里大学獣医学部教授 吉川泰弘

獣医学教育の改善・充実に関する 調査研究協力者会議の検討結果

2011年 日本獣医師会年次大会（岐阜）

合同教育講演「変わる獣医学教育」
獣医学教育改善の流れと方向性



北里大学獣医学部 吉川泰弘

獣医学教育改善運動の経緯と 協力者会議での議論

大阪、東京、鹿児島、北海道
獣医学教育改革シンポジウム 講演 1

1. 獣医学教育改善運動の経緯
2. 獣医学教育の置かれた状況の変遷
3. 文科省協力者会議と全国協議会の方向

全国大学獣医学関係代表者協議会会長
北里大学獣医学部 吉川泰弘

意見のとりまとめ — 今後の獣医学教育の改善・充実方策について —

獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議
座長

唐木英明
代理：吉川泰弘

北里大学獣医学部FD講習会
2012年1月17日

獣医学教育改革の新しい流れ

1. 獣医学教育の置かれた状況の変遷と
獣医学教育改革運動の歴史
2. OIEによる国際獣医学教育基準
3. 文科省・調査研究協力者会議の経緯と提言
4. 全国大学獣医学関係代表者協議会の活動と展望

全国大学獣医学関係代表者協議会会長
北里大学獣医学部教授 吉川泰弘

岩手県獣医師会岩手大学支会・岩手大学農学部獣医学課程共催セミナー
Feb. 8, 2012 岩手大学工学部テク/ホール

獣医学教育改革の展望

1. 獣医学教育の置かれた状況の変遷と
獣医学教育改革運動の歴史
2. OIEによる国際獣医学教育基準
3. 文科省・調査研究協力者会議の経緯と提言
4. 獣医学教育改革の展望



全国大学獣医学関係代表者協議会会長
北里大学獣医学部教授 吉川泰弘

獣医学教育のニーズ・状況の変化

ニーズの変化

戦後の獣医へのニーズ: 国内①新しい産業動物獣医学の確立
②基礎獣医学の拡大・発展(生命科学)、③高度獣医療技術の推進
④食の安全確保、⑤感染症・リスク分析・公衆衛生分野の充実

国際ニーズ: ①国際獣疫事務局(OIE)を中心とする獣医師の役割・責任の明確化、②FAO(食糧安定供給)、WHO(スー/ノーシス統御)による獣医師の責務③獣医サービス技術の高度化、齊一化

状況の変化

文科省: 教育のミッション、質保証、グローバル化(中教審)
協力者会議: シラバス分析、4本柱の教育改革、ロードマップ
共同学部、共同教育課程の設置認可
農水省: 獣医師法17条の見直し(参加型実習)
全国協議会: 目的と組織の改革

獣医教育改革の戦略と戦術の変化

戦略の変化

- 改革理念は既に出来ている
 - トップダウン方式をやめ、ボトムアップにする
- 科学的な（エビデンスベースの）分析を改革の根拠にする

戦術の変化

- 現場の改革から始める（ボトムアップ）
 - 全獣医教員への説明と同意（全員参加型）
 - ↓
 - コアカリ、標準テキストの作成
 - 参加型実習、共用試験
 - 全国インターンシップ、第三者評価
- 護送船団方式の解消（出来る大学からやる）
- 国立大学の再編から私学を巻き込んだ教育改革へ
- 法人化後の大学の学部・大学を超えた改革
- 文科省と二人三脚で

獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠

魚病学

FISH PATHOLOGY

監修 児玉 洋

編集委員 川本 恵子 森友 忠昭 和田 新平



獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠

獣医疫学

—基礎から応用まで—

獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠

動物行動学

森 裕司 武内ゆかり 内田佳子 著



VETERINARY BEHAVIOR

獣医学共通テキスト編集委員会認定



Veterinary Medicine
Model Core Curriculum



獣医学教育 モデル・コア・カリキュラム

平成24年度版



全国大学獣医学関係代表者協議会



メディアからの後押し、現場の若手も参加

朝日新聞 平成24年1月15日

The *Asahi Shimbun*
GLOBE

January 17, 2012

獣医師たちの たたかい

Sunday, Jan 15, 2012 No.79



感染症対策から食の安全まで

獣医師さん、と聞くと可愛いペットの治療をイメージがちな。実は、インフルエンザなど感染症の世界的な流行を防ぐ役割も担う。家畜診療から人間の食の安全確保まで、10の現場を訪ねた。

教育改革戦略(第1期)

望月公子会長(東大)により、6年制に向けての改革

第8回(58.4.1)~第16回(60.4.6)協議会会長

- ① 国立大学は**再編整備**を行なう(北、東、中、西部の4ブロック)
公衆衛生、臨床獣医学の充実、生命科学・国際対応の出来る獣医師
- ② 現有教官総数を基本とする
- ③ 早急に概算要求などの行動に移る
- ④ **学部創設**を目指す
- ⑤ 大学院設置を目指す
- ⑥ 規模は25講座以上が望ましい($25 \times 3 = 75$ 名)

* 再編整備は既成組織の改廃整理スクラップ・アンド・ビルドの原則が要求されるとして、各大学に検討を要請。

- ・現在に至る、教育改革のビジョンは、既にこの時に描かれている
- ・獣医学教育改革が国立大学の範囲にとどまってしまった!



**40年にわたる獣医学教育改革
運動の集大成時に直面した
我々は幸運である！**

**苦しくても、20年～30年後に
評価されるような
教育改革を進めるべきである。**